

第 22 回 鋼構造と橋に関するシンポジウム



「鋼橋の平成における発展・整備と令和時代に向けての展望」

平成が終わり、新しい令和の時代が始まりました。平成時代を振り返ると、本州四国連絡橋の建設や第二東名神高速道路、整備新幹線の建設、都市圏の環状道路の整備に代表されるように多くの鋼橋が建設され、それに伴う多くの新形式鋼橋の開発・整備や、鋼橋に関連する新技術の開発が進みました。一方で、平成時代は兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震、熊本地震などの大震災や豪雨災害など、多くの大災害を経験した時代でもありました。鋼橋もこれらの大災害により甚大かつ多様な被害をうけましたが、産官学一体となった対応により迅速な復旧が実現されたほか、それを教訓として耐震設計手法や災害への備えも大きく変わりました。また、道路橋では鋼製橋脚や鋼床版の疲労が深刻な問題となり、疲労設計が取り入れられました。道路橋の設計法も許容応力度設計法から部分係数設計法へと大きく舵が切られました。入札・契約制度も、平成初期の諸外国の圧力による入札制度改革を皮切りに、平成の中頃には技術提案評価方式が導入されるなど、大きく変わりました。インフラ施設の充実に伴い新設橋梁の発注量が減少しつつあるかわりに、高度経済成長期に建設したインフラ施設の老朽化が進み、維持管理への関心や維持管理投資は拡大しており、鋼橋を取り巻く環境も大きな変革期を迎えております。国内、すべての橋梁に対する 5 年に 1 度の近接目視点検が義務化され、橋梁点検・診断をはじめとする維持管理に関する技術開発も盛んにおこなわれています。平成の 30 年を振り返ると、鋼橋にとって激動の時代でした。

5 月から新しい時代、令和が始まりました。新設橋梁から維持管理へ、国内から国外へのシフトがさらに進み、IT や AI が益々、目覚ましい発展を遂げることが予想される時代、鋼橋はどのような発展を遂げるのでしょうか？ 今年の鋼構造と橋に関するシンポジウムでは、平成の終わりと令和の始まりを記念し、平成時代における鋼構造の発展、変化、整備の歴史を振り返るとともに、新しい令和の時代に向けた今後の展望を議論することといたしました。

行事コード【東京会場】：25901 略称：東京 22 回鋼構造橋シンポ

行事コード【福岡会場】：259011 略称：福岡 22 回鋼構造橋シンポ

1. 主 催：土木学会（担当：鋼構造委員会）

後 援：日本鉄鋼連盟，日本橋梁建設協会，鋼橋技術研究会，建設コンサルタンツ協会
中日本高速道路株式会社，西日本高速道路株式会社，首都高速道路株式会社
阪神高速道路株式会社，東日本旅客鉄道株式会社（予定）

2. 日時・場所：

【東京会場】2019 年 8 月 2 日（金）10：30－17：00（受付開始 9：50～ 受付終了 16：00）
法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲート 5 階 G503 教室
（東京都千代田区富士見 2 丁目 1 7-1）

【福岡会場】2019 年 8 月 5 日（月）10：30－17：00（受付開始 9：50～ 受付終了 16：00）
TKP ガーデンシティ博多 阿蘇 1（博多区博多駅前 3-4-8 サットンホテル博多シテイ内 5F）

3. 定員： 200名（法政大学）， 150名（TKPガーデンシティ博多）

4. 参加費：一般6,000円，学生1,000円（テキスト代含む）

5. 申込み締切日：2019年7月19日（金）

6. 申込方法：

学会誌綴込みもしくは土木学会ホームページ内

<http://www.jsce.or.jp/event/active/form.pdf> の「本部参加申込書」に所定の事項（特に行事コード番号）を明記のうえ，研究事業課行事担当宛に FAX（03-3355-5278）でお申し込み下さい。申込到着後，開催日1週間前までに折返し「参加券」をお送りいたします。

土木学会個人会員の方は土木学会ホームページ

<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp> から申し込みが出来ます。

※申込みに関してのお願い

- (1) 参加費は原則事前振込とさせていただきます。 なお，所属先の経理上の都合により事前振込が出来ない場合には通信欄にその旨お書き添え下さい。
- (2) 申込締切日前に定員に達している場合がございますのであらかじめご了承ください。なお，締切日以降の事前受付はいたしません。ただし，定員に余裕がある場合のみ，行事当日に会場にて受付いたします。
- (3) お申込み後，やむを得ずキャンセルされる場合は，必ず開催日の1週間前までに下記の「問合せ先」にご連絡ください。ご連絡がない場合は，参加費を徴収させていただきますのであらかじめご了承ください。
- (4) 申込みをされる前に送金いただくことはトラブルの原因となりますので固くお断りいたします。

7. 問合せ先：土木学会研究事業課 尾崎

TEL03-3355-3559 MAIL fumiharu-ozaki@jsce.or.jp (“at”を@に変更して下さい)

8. プログラム

	8月2日(金)	8月5日(月)
	東京(法政大学)	福岡(TKP ガーデンシティ博多)
10:30~10:35	開会あいさつ 鋼構造委員会委員長	
10:35~11:00	鋼構造委員会 幹事長 鋼構造委員会の活動, および平成の歩み	
11:00~11:30	「平成における橋梁用鋼材の発展と令和の時代の展望」 (一社)日本鉄鋼連盟 高木 優任様	
11:30~12:00	「平成時代における鋼橋設計の変遷と今後の展望」 (一社)建設コンサルタンツ協会 塙 喜久雄様(東京会場) 鷲見 英吾様(福岡会場)	
12:00~13:00	休憩	
13:00~13:30	「平成における鋼橋の製作・架設技術の発展と今後の展望」 (一社)日本橋梁建設協会 春日井 俊博様	
13:30~14:00	「鉄道における平成時代の鋼橋の発展と今後の展望」 東日本旅客鉄道(株) 行澤 義弘様(東京会場) 西日本旅客鉄道(株) 西田 寿生様(福岡会場)	
14:00~14:30	「NEXCO における平成時代の鋼橋の発展と今後の展望」 東日本高速道路(株) 安川 義行様(東京会場) 西日本高速道路(株) 横山 和昭様(福岡会場)	
14:30~14:40	休憩	
14:40~15:10	「首都高速道路における平成時代の鋼橋の発展と今後の展望」 首都高速道路(株) 白鳥 明様	「阪神高速道路における平成時代の鋼橋の発展と今後の展望」 阪神高速道路(株) 西岡 勉様
15:10~15:40	平成時代における本四架橋と維持管理への時代への変換 本州四国連絡高速道路(株) 林 昌弘様	
15:40~15:50	休憩	
15:50~16:50	基調講演 鋼構造と橋 平成時代にあったこと, 令和時代になすべきこと 土木研究所 西川 和廣 様	
16:50~17:00	閉会あいさつ 鋼構造委員会 副委員長	

※懇親会の開催について

シンポジウム終了後、下記により懇親会を開催いたしますので、参加ご希望の方はシンポジウム当日、受付にてお申し込み下さい。

【東京会場】

日時：8月2日（金）17:30～18:30

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート3階 つどひ

会費：2,000円程度（予定）

【福岡会場】

日時：8月5日（月）17:30～18:30

会場：TKP ガーデンシティ博多 霧島

会費：2,000円程度（予定）